

図1 各種レジャー参加者率

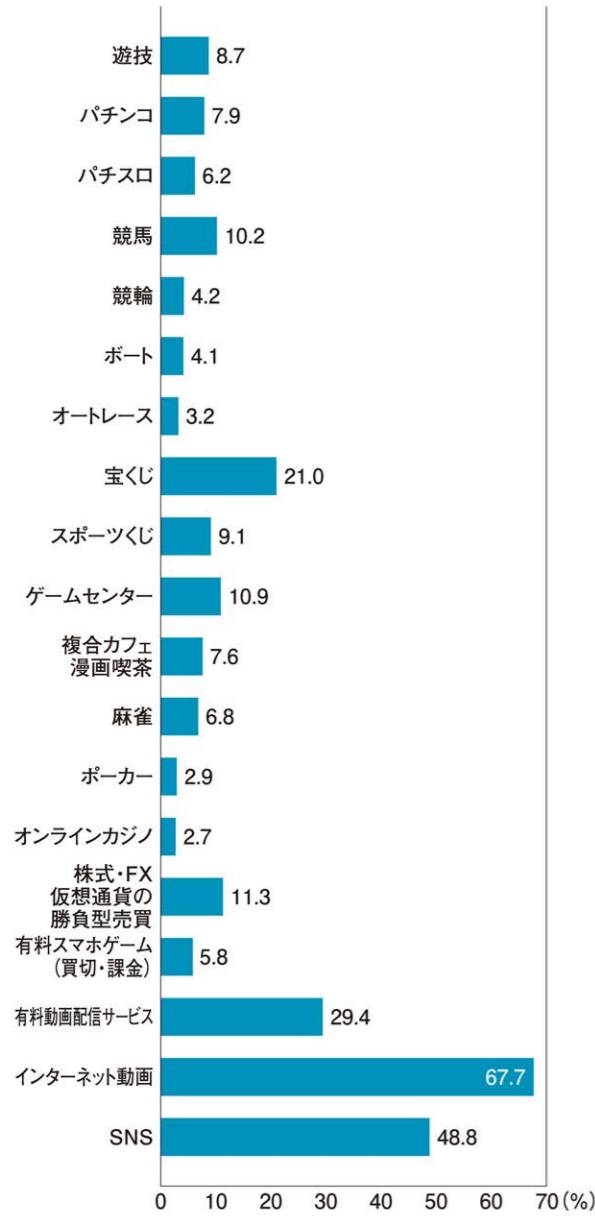
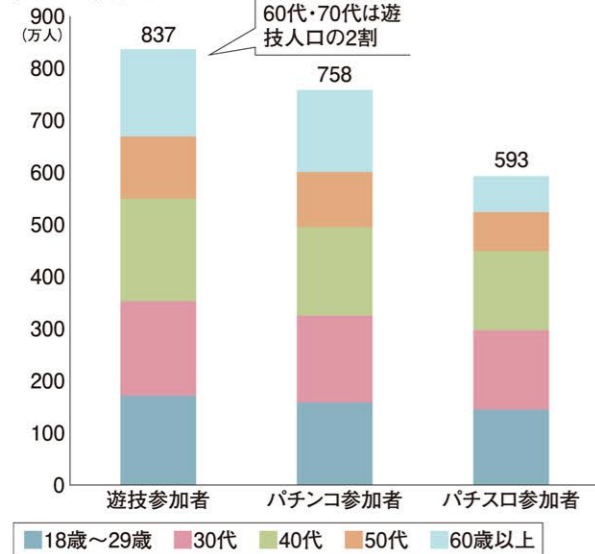


図2 遊技参加人口



アミューズメントプレスジャパンは、遊技業界に特化したマーケティング会社「シーズリサーチ」が主催する「パチンコ・パチスロプレイヤー調査」の前身である「パチンコ・パチスロプレイヤー調査」の前身であるスクリーニング調査で、回収サンプルは約3万7532。地域や年代に偏りが出ないよう回収サンプル数を割り付けた上で、回答者の性・年代の構成比が国勢調査に準拠するようウェイトバック集計を行った。

調査から得られた回答を本誌が独自に分析し、その要点をレポートする。

① レジャー参加者率

本調査によると、遊技可能な18歳~79歳人口における、過去1年間に「パチンコもしくはパチスロ」を1回以上遊んだ人(2021年の遊技参加者の割合は8.7%だった。18歳~79歳の人口を基に推計した参加人口は837万人)。

遊技参加者率は、2020年の活動を尋ねた前年調査(2021年2月に実施)より0.3ポイント(推計24万人)増加した。しかし、コロナ禍前の2019年の推計1024万人と比較す

ると187万人も少なく、「回復」には程遠い状況だ。

年代別に見ると、遊技参加者率が最も高いのは30代。次いで18歳~29歳、40代の順で、年代が高いほど参加者率は低い。ここから年代別の遊技参加人口を推計すると、遊技者の中で最も多くを占める年代は40代で197万人。次いで30代が181万人、18歳~29歳が171万人で、いずれも60代と70代を合わせた遊技人口167万人を上回る。60代以上(60代と70代の合算)の人口は他の年代と比べ多いが、前述の通り遊技参加者率は他の年代に比べて低いため、遊技参加者に占める60代・70代の割合は2割に過ぎない。

パチンコ、パチスロを個別にみると、パチンコの参加者率は7.9%(前年比0.3p増)で推計参加人口は758万人、パチスロの参加者率は6.2%(同0.2p増)で参加人口は593万人。いずれも前年調査より微増した。

パチンコ、パチスロいずれも参加者率が最も高いのは男性30代層で、次いで男性18歳~29歳層。公営ギャンブル4種のいずれにおいても参加者率が最も高いのは男性30代。年代が高いほど参加者率は低くなる。

地域の人口構成比が高齢層に偏っているなどの局地的な例外はあるだろうが、俯瞰すればパチンコ・パチスロも

続きは月刊アミューズメントジャパン5月号をご覧ください



2022 パチンコ・パチスロ&レジャー参加実態

遊技参加者人口の回復見られず 高頻度プレイヤーはさらに減少

アミューズメントプレスジャパンとシーズリサーチ、エンタテインメントビジネス総合研究所は共同で今年2月に、全国の生活者3万7千人以上を対象にした、パチンコ・パチスロを含む様々なレジャーの参加状況に関する調査を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、パチンコやゲームセンターなどレジャー施設で遊んだ人の割合が前年調査から回復しておらず、レジャー施設の苦戦を裏付ける結果となった。

調査期間 2022年2月
 調査対象 全国の男女18歳~79歳、有効回数サンプル数3万7532s
 調査手法 市場調査会社のモニターを対象にしたインターネット調査
 企画設計 シーズリサーチ、エンタテインメントビジネス総合研究所(EBI)、アミューズメントプレスジャパン(APJ)

GAMBLING LEISURE & PACHINKO / PACHISLOT ACTIVITIES SURVEY 2022

conducted by Sees Research, Entertainment Business Institute, and Amusement Press Japan

